

4月21日の12時に始まった過ぎ越しの礼拝はスムーズに進み。終るとカール先生、岸野先生によって聖餐を頂いて食事の部に移り、皆様和やかにゆったりと楽しんでいただけてすごす事が出来た。

式文、これはまさにハガダ Haggadah なのである。Zimmerman 牧師は毎年過ぎ越しの祭りを行っているという牧師とお話されて、“Let’s Break Bread Together” という本を使われたとの事でその本を得てそれを元に LCR 独特の Christian Haggadah を書かれた。会合を数回持ってそれぞれの意見を入れて決定すると芙美さんが日本語を加えた。

食事係りの私は去年は初めてだったので量がはっきりせず量が多すぎたようだったのでそれを考慮に入れて材料を買った。困った事は。わざわざコーシャーマーケットに行って羊の骨シャンクポーンとマツァスープを買ったのだが家に着いたら羊の骨が入っていなかった事だ。小さい包みでレジの人は去年の人と違い知識足らずなのかごみと思って始末したのだろうか。又行くのも大変なのであちこちに電話してアルバートソンが持っているとの事で行って見たが大きな肉付ききのを小さく切ってはくれたがコーシャーマーケットでは1ドル以下の出費のはずが4ドル近く払わされた。来年は店を去る前に確かめるべきと学んだ。

過ぎ越しの前日20日には丁度教会から数分の距離にある私の眼科医に朝7時から夜8時まで3時間ごとに検査に行くので、それを利用して検査の合間に教会に行き、芙美さん、岸野先生、Carl先生と集まり最後の打ち合わせがあった。そのあと芙美さんの助けを得てパセリとロメインレタスを洗って準備、マツァパンを準備、皿をカウンターにおろすなどこの日にできる事をする事にしたので翌日21日の朝に自由時間が出来て当日にマツァスープを作る事にした。

20日午後9時に帰宅して種無しのケーキ作りに取りかかり、それをオーブンで焼いている間にチャロセット（漆喰）づくりに取りかかった。私は午前頭に頭がすっきりして元気がある性質なので夜9時となると頭がぼけてきたのだろう。ワインとレーズンとドイツとパインナッツとアーモンドと蜂蜜をいれたフードプロセサーの蓋をしっかりと閉めなかったようでこのベタリするものが台所の半分に当たるありとあらゆる物に飛び散ってしまった。丁度「台所を掃除しなさい」ということなのだろうと諦めて汚れの始末をした。

21日は朝4時に起きてチキンをりんごと干し杏の上に乗せてシールをしてオーブンで焼いた。芙美さんは9時前から教会で既に活躍していて私は9時に教会に着き第一にスープを作るのにクオートが何オンスなのかペーパーローラーズのかたがたに聞いて32オンスとわかったのだが台所にあった計量カップを見たらちゃんとそれにはついていたのであった。過去2年間は数日前に自宅でマツォ団子を作り壊れないように冷凍して当日にスープに入れて使った。今回は教会の台所でスープも団子も作り冷凍の世話が省けたのだが小さい団子を丸めて40人分作るには結構時間が経った。

団子作りが終わりに近づく頃助けの人が現れた。深見さんとフレンドシップタスクフォースのシェロルとジェインさんである。しばらくすると井上さん、佳代子

さんも助けに来られた。皆それぞれ簡単な説明でどんどん動いていただいて 11 時半にはテーブルは美しく飾られて準備が終った。(写真を見てください)。



式は 12 時に始まりこれといった間違いも無くスムーズに進み、終了と同時に聖餐を頂いた。そしてbuffeスタイルで食事となった。食事の説明は別紙の「今日頂いた食物」を参考にしてください。

昨年疑問だった「肉」の事を調べてみた。ユダヤ教では多くが羊を食べない。神殿が崩されて以来、神殿が再建されるまで羊は過ぎ越しには使わないという考えのようだ。それでもユダヤ教の少数の派ではサマリタンなど羊を使う、これは厳しい規則にしたがって成される。クリスチャンにはメサイヤであるイエスキリストは既にこられている。そしてイエス様は出エジプト以来のしきたりを守り羊を過ぎ越しに食べられたらうからそれに従って羊を過ぎ越しに頂く。。。と理解した。

又 7 日間続く過ぎ越しも 8 日間の所もある。現在のようにインターネットで情報が得られる時代ではない。ローマ帝国時代に神殿は壊されてイスラエルから強制的に追放されてディアスポラとなったユダヤ人はいろいろな土地に散らばっていた。だから漆喰のレシピも住む場所、宗派によって異なる。過ぎ越しの日、復活の日は昔の暦と満月とで毎年決められるのだがイスラエルから遠いところにすむ人々は暦が間違っていたりして日を間違ふことを恐れて、万が一のためにと、もう 1 日加えて祝ってきた事から 8 日の過ぎ越しとなったらしい。

正式に過ぎ越しを行うユダヤ教では数日前に何日もかけて過ぎ越しの準備をするのだが一番大きな仕事は家を掃除して醗酵する疑いのあるものは全部始末することである。始末する物は異教徒の人に売るかまたは焼くべきとされる。少量の粉が残っていてもいけないと大規模な掃除をして。又食器もコーシャーでない物に使った物は避けて、安全を確認する為に過ぎ越し用専門の食器だけを使うとも言われる。

**Leaven** とは穀物の醗酵であってソーダやベーキングパウダーは科学作用であるから使ってもよいという考えもある。とうもろこしは醗酵するから禁止されていて過ぎ越し用のパウダー砂糖はポテトパウダーを加えてある。米の料理は欠かせない宗派もあるそうだが使わない宗派のほうが多いのではないかと想定する、まして日本人である私たちは米が醗酵して酒になるのをよく承知のはずである。

平日のデザートにはバニラが香料として良く使われるが過ぎ越しとなるとあまりバニラを使ったのが無いのはバニラが穀物で出来たアルコールに漬けてあるかららしく。他の方法で出来たバニラを得る事は難しいからであろう。

昨年料理が目的で調べ出した過ぎ越しのしきたりは昨年はチンプンカンプン外国語の独学のように何回読んでも頭に入らなくて大変困った。今年は少し理解しやすくなり記憶もよくなった。

ユダヤ教キリスト教の行事は地球の歴史、そして生活から取り外す事が出来ない人類の生活の大きな部分を占めていると思う。そのような事を学ぶチャンスを得られた事を本当に感謝している。



## 本日頂く食物

子羊の骨 神への捧げもの アブラハムの時から神に捧げた。今日の式ではシンボルだけで牧師の皿にひとつ置いてあります

青菜(パセリ) 春、新しい命、希望のシンボル(式では塩水につけて食べる)

パン=マツア 種無しのパンは出エジプト、苦労を想うパンです

苦菜(ホースラディッシュ西洋わさび) 奴隷の辛さを涙を出してあじわいます

漆喰(リンゴ、クルミ、ハチミツ、ワイン)ピラミッドを作る漆喰のシンボル  
でもあり人生の甘い楽な時をも象徴する

ゆで卵(実際は火 de でローストされます)卵は神への捧げ物、神殿の壁、  
人類の嘆きと苦しみの象徴。  
私たちクリスチャンは新しい命、復活と受け止めてイースターエッグを楽しむ。

**苦菜2**(ローメインレタス=根が苦い) 辛い奴隷時代を思う

**マッツォ団子(3個)スープ** クリスチャンの私たちには、神と聖霊とイエスさま三身一体を象徴する  
アブラハム、イサク、ヤコブを偲ぶ。

**肉**(チキンの林檎とくるみ焼き)年で一番のお祭りですからご馳走を食べます  
魚、肉はコーシャなら何でもいいのです。

**デザート**(ハンガリアンチョコレートトート)胡桃チョコレートケーキ  
種(ソーダや小麦粉)を入れずに胡桃を粉にして焼いてあります。

**飲み物**(ぶどうジュース、水)個人の家庭では**ぶどう酒**です

4杯の葡萄酒

1-すべてを祝福 2-物語 3-感謝 4-神の愛の確認

(神の約束)1-あなた達を導き出す 2-あなた達を救い出す3-あなた達を購う 4-私はあなた達の神となる  
(4人の女性)サラ、リベカ、ラケル、リア

(その他の食物:パインナッツ、アーモンド、オレンジ、ナツメヤシ、オリーブ、レズン、パースニップ、蜂蜜、香料、ワイン)

過ぎ越しのセーダーはユダヤ人の最大の祭日です。今日の食事は質素ですが現代の料理はコーシャであればいろいろすばらしい物が出されます。ユダヤ人の礼式では苦菜のあと晚餐に移り、定められたとおりの話を聞いたり質問したりしながら長く続き、最後の食べ物は式の始めに割って残しておいたパンの半分をちいさく裂いたのを頂くことで食事は終わり、三杯目の感謝の杯の式に移ります。夜半遅くまで続くので、誰もが枕を与えられます。又テーブルでの水に気を配り跳ねた水でパンがぬれないように、跳ねても濡れるのを防いで布巾をかけてあります。万が一膨れる粉が混ざっているかも知れないという考えから来ています。

3枚のパン、3個の団子、4杯のワイン、この数字にはいろいろな意味がふくまれています。

(食事準備:民 Day)